

東秩父村新指定文化財紹介

指定名称 長慶寺木造釈迦如来坐像 一軀 附像内納入仏（木造釈迦如来坐像）

指定区分 有形文化財

種別 彫刻

員数 1 軀

所在地 東秩父村大字白石

所有者 長慶寺

指定年月日 平成27年3月19日

長慶寺本尊。現本尊の像内を深く割り、台座上半分にも空間を設けて慶長9年（1604）銘の釈迦如来坐像を奉籠する。

納入仏は、その様式・作風から銘文のとおり慶長9年の造立とみてまちがいない。現本尊像は、江戸前期から中期にかけて流行した典型的な黄檗様式の釈迦像で、その類型化した表現からすると江戸中期頃の制作と考えられる。

『新編武蔵風土記稿』長慶寺の記事に、「この寺往昔壬癸の災にかかり、流亡して後寺地を高所に引移すと云」と見える。「壬癸」がいずれの年代をさすのか明らかでないが、おそらく寛保2年8月2日の洪水を示す。慶長9年銘の釈迦像は流失以前の旧本尊像であったと考えられる。寺地を移し再興時に（安永5年11月1日）新たに現本尊を迎えて旧本尊像を像内に奉籠したものと理解される。

旧本尊像は、七条仏師と名乗る作者にしては鄙びた作風ながら、いかにも時代の相を表した簡明素朴な作品となっている。



- ※奉 籠＝納める
- ※鄙 び た＝田舎らしい
- ※簡明素朴＝余分な装飾がなく、簡潔でわかりやすいこと



納入仏の膝裏墨書銘

六衛門	施主	御本尊	衆上長	順年	奉造立
太市郎	内い奈	次□□	□□	□□	本
は力こ	きこ	いさこ	□□	□□	
		衛門			

六衛門	施主	御本尊	衆上長	順年	奉造立
太市郎	内い奈	次□□	□□	□□	本
は力こ	きこ	いさこ	□□	□□	
		衛門			